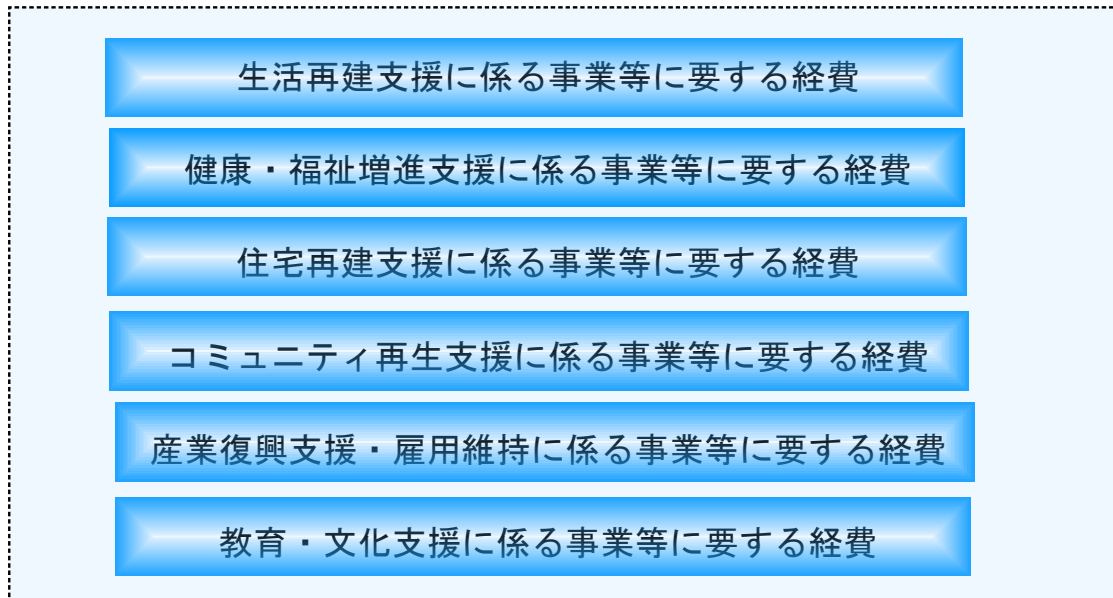


## 「汗動・協働・創造」枠 ～平成26年度当初予算～

平成26年度当初予算編成においても、引き続き「汗動・協働・創造」枠を設け、地域経済の活性化や震災復興、さらには地域社会の再構築等の分野において、「汗動・協働による全員参加のふるさと会津の再生と活力に充ちた新生会津若松市づくり」の構築に寄与することを目的とした事業枠とする。

### ◆ 対象分野

【市復興基金条例及び福島県市町村復興支援交付金に沿った事業とすること】



### ◆ 要求基準

- ①総力を結集し、斬新なアイデアで、新生会津若松市の創造にふさわしい事業であること。
- ②市民の声を聞き、同じ目線で考え、ともに知恵を出し合う等、「汗動・協働」により、関係する市民や関係団体等と一体となって取り組む事業であること。
- ③事業の推進に際しては、行政とともに、市民や関係団体等とが主体的責任と役割を担うものであること。
- ④広域的な連携や部局間の連携による共同事業を積極的に導入すること。
- ⑤復興を基本としながら、新たな地域振興への要素を加える工夫をすること。

### 《基本事項》

- 対象事業は、原則として市の単独事業及び新規事業とする。
- 継続事業の要求も認めるが、発生するコストとこれまでの成果や今後期待できる効果等を見極めながら、「ゼロベース」で判断を行う。
- 通常の配分枠における要求とは別枠での要求とする。

# 要求基準細目

## 1) 事業の総枠

- ①当該枠の対象とする事業の総額は2億円を基本とすること。
- ②財源は全額を復興基金とすること。

※状況に応じて、事業の財源の一部として国県補助金等の活用を認める。

## 2) 要求にあたっての留意事項

- ①当該枠設定の趣旨を踏まえ、提案内容の検討・検証を十分に行い、部局ごとに優先順位を定めて要求すること。
- ②復興基金については5年程度※の活用を基本としているため、提案件数やその総額については、全体で2億円を基本としていることを念頭におくこと。

※5年程度…H24～H28年度（基金残高9月末現在 418,136千円）

- ③事業熟度や計画性、さらには期待される成果等明確に説明できる内容であること。よって前年度において不採択となった事業について、そのまま継続して要求することは認めない。

## 3) 事業の要件

原則として、下記の要件を満たしていること。

- ①特定企業や特定個人の利益となる事業となっていないこと。
- ②事業の全部を委託または補助する内容のものでないこと。ただし、事業の目的を達成するために必要な経費の一部としての委託料等はこの限りでない。
- ③各部局等の連携事業については、連携体制を構築し、役割分担やそれに基づく予算活用の考え方等、それぞれの責任を明確にすること。
- ④事業費の全てが人件費となっていないこと。
- ⑤国県の補助メニューに沿った事業はその採択を優先し、一般枠で要求すること。

## 4) その他

- ①例年、通常の配分枠により実施している事業の振替は認めない。
- ②当該枠で対象となった事業については、新たに予算配分を行うものである。  
したがって、枠配分における要求とは別枠とするため、当初の要求段階では財務会計システムへの入力を行わないこと。
- ③継続事業については、事業の実績とこれまでの成果、現在の進捗状況、今後期待される効果等が説明できる資料を添付すること。